



富士霊園に納骨のため出かけるに際し、その前日、強羅に宿泊しました。時間に余裕ができたので、さっそく箱根関所の隣の神奈川県立恩賜公園に出かけました。公園は散策したり、富士山、芦



ノ湖を眺めたり、お弁当を食べたりするのに絶好の場所です。展望館の職員はこんなに富士山がよく見えるのは珍しいと大喜びでした。また、ハクセキレイも呑気に遊んでいました。

以前から、元箱根の石仏、石塔群を見たいと思いながら叶わなかったのが、今回はそれを見ることにしました。箱根駅伝が通る国道1号線の山道に沿って石仏群がありました。「国の史跡」に指定されているそうです。山あいの静かな谷に小さな精進池があり、その周辺に重要文化財である磨崖仏が散在しているのです。精進池は静かで、イノシシが荒々しく走り込んだような足跡が、くっきりと岸辺の土から池の中にまで、あちこちに残っているだけでした。

木造の立派な案内所の歴史館がありましたが、無人でした。歴史館の中にもいくつかのお地蔵様が展示されていました。パンフレットを求め、その案内に沿って、一つ一つ回って行きました。

まず、六道地蔵(ろくどうじざう)からスタートしました。「元箱根のシンボルともいえる、地蔵菩薩坐像は、3.15mの高さ、磨崖仏の地蔵菩薩坐像では国内最大級」とのことでした。これだけは野ざらしではなく、祠に安置されていました。鎌倉時代後期に作られ、重要文化財に指定されています。少し暗かったので、見づらかったのですが、硬い安山岩に浮彫された、端正で穏やかな仏像です。私は仏様については全く不案内です。



まず、六道とは？衆生の住む、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天の6つの世界とのこと。地蔵とは？六道、即ち仏のいない世界に住む衆生を教化、救済するという菩薩とのこと。最後に菩薩とは？悟りを求めて修行するため、崇拜対象となった人ということです。以前臼杵の石仏を見ましたが、あちらは大日如来ですから、悟りを開いた人、仏様ということになります。

地蔵となると菩薩の中では庶民に一番身近で、道端にも建てられていて、お地蔵さんと愛称されているほどです。左手に宝珠、右手に錫杖をもって、衆生の求めに応じ、どこまでも共に行くと言う気概を示しているようです。14世紀頃は、箱根もまだ、危険な恐ろしい山だったでしょう。山道を越えて旅する人、山奥に住み、働く人がこの地蔵に安心、安全を祈って、すがったのでしょうか。

その他に大きな岩盤に、小さな仏像がいくつも彫られている二十五菩薩と呼ばれている仏像群が東西2箇所にありました。また、尼僧の墓や、曾我兄弟の墓などの五輪塔もありました。応長地蔵という可愛らしい顔がよく見える石仏もあります。鎌倉時代に熱心な信仰をもった僧侶が、大勢の石工を動員して、このような山深い所に地蔵菩薩を彫らせたことが、石に刻まれた年号や、石工たちの銘によって今に残されています。けれども野ざらしになっていますし、700年以上の歳月が流れ、摩耗してきているのは事実です。文化財として残されていますので、当時の人々の生き方や、考え方に思いを馳せたいと思いました。古代の人々は、厳しい、静かな自然のなかに、人間を越えた「大いなる恩寵」を感じたり、求めたり、祈ったりしたのでしょうか。